

審査でこんな質問がされ、自由
討議でこんな意見が出ました。

Q 新たに地方の就職学生支援
事業費補助制度が創設されたが、
対象者と創設の理由は。また、
広報はどのように行うか

A 東京圏の埼玉、千葉、東
京、神奈川の大学を卒業する
学生に、菊川市内への移住を
伴う県内への就職を支援する
ために実施するものである。

国が地方創生移住支援事業を
拡充して、若者の地方移住に
対する支援強化として、新た
に令和6年度から開始するこ
とから、本市においても制度
を活用し、本市出身などの学
生に本市への移住を促してい
きたいと考え、創設したもの
である。卒業年次において東
京圏内に継続して在住してい
ること、地方企業への就職が
内定していること、移住する
意思を有していること等が要
件となり、令和7年春に4年
制大学を卒業予定の学生から

適用となる。広報については、
市ホームページへの掲載や公
式SNSでの情報発信等に加
えて、対象となる学生や保護
者への周知に努めていく。ま
た、産業支援センターENG
AWAを訪れる学生等へも情
報提供を行い、制度の活用を
図っていく。はたちの集い開
催時にも周知を図っていくた
いと考えている。

静岡県は移住希望地ランキング
が4年連続で日本一になってい
るが、菊川への移住定住は、あ
まり進んでいない状況にある。
要因として働く場所の問題があ
ると思う。これからの時代を
担っていただく方々に来ていた
だくための施策を考えると、地
方就職学生支援事業の果たす役
割は大きいと考える。

学生へ制度のPRをしっかりと
して多くの学生に就職活動に
来ていただき、就職につながる
ようにして欲しい。

Q 令和5年度の敬老会の出席
状況は。出席年齢の見直しの必
要はなかったか。前年度と比べ
本年度の敬老会での変更点はあ
るか。

A 出席状況は、令和5年度
は9月1日時点で、対象者1、
539人のうち、出席者345
人、付添者31人の合計376人
であった。出席率は22.4%で
あった。初めて開催をした令和
4年度は、対象者1,369人
のうち、出席者243人、出席
率は17.7%であったため、コ
ロナ禍が落ち着いてきたことで、
通常の状態に近づいてきたと考
えている。現在の敬老会の開催
方法は、出席者の健康面への配
慮、対象人数の増加に対する会
場の問題、自治会の負担軽減の
ため、連合自治会と2年間にわ
たり検討会にて協議を行い、現
在の開催方法を決定した。令和
4年度に開催方法を変更したば
かりであること、さらに、今後
対象者が年々増加する見込みで
あること、会場の規模にも限り

があること等を考慮し、すぐに
対象者の見直しを行うことは考
えていない。しかし、令和4年
度からの新しい開催方法につい
て、「長寿の高齢者の方を敬い、
お祝いする」という趣旨を達成
し、出席者が満足しているか等、
常に見直しをかけていく必要が
あると考えている。

対象年齢が90歳の次が99歳は変
えるべきだ。出席できないのは
仕方ないが、90歳を超えても
元気な方はいると思う。同級生
に会うという楽しみがある。

1年1年そこに至る重さが違う
と感じる。88歳以上の方たちに
は毎年、声をかけるべきではな
いか。

